

7/13(土)~8/31(土)

サマーフェア開催中

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (7/27~9/4)

ボタニカルアート作品展

◇展示温室 (7/20~8/18)

世界の食虫植物展

センノウ (ナデシコ科)

中国原産の多年草で、室町時代の初期に渡来したとされています。夏の茶花として親しまれているほか、旧暦の七夕(8月7日)ころに咲き、キキョウと並んで七夕の花合わせに用いられたことから、七夕節のことを仙節(仙翁花の節)とも言います。

レンゲショウマ

(キンポウゲ科)

日本固有種で1属1種の植物です。ビ一玉のようなつぼみから、ハスを逆さまにしたような可憐な花を咲かせています。

サギソウ

(ラン科)

日本原産の湿地の野草です。白い清楚な花はサギが羽を広げたように見えます。当園のシンボルマークにもなっています。

バナナ (バショウ科)

タイワンバナナ(北蕉と仙人蕉)、合掌バナナ、フランバナナ、野生バナナなど多くの種類がいっせいに花や実をつけています。

ヒマワリ (キク科)

カスケードと花の迷路に矮性(株丈20cm~1m)の品種を約1200株植えています。花は小型ですが集合写真にお勧めです。

マンデビラ (キョウチクトウ科)

中南米原産のつる性植物で、花を次々に咲かせます。緑のカーテンにも用いられます。

ヒゴタイ (キク科)

日本では九重~阿蘇山山麓、広島、愛知、岐阜の各県の限られた場所に生える希少な野草です。切花で流通している近縁種のルリタマアザミが進化園で咲いています。

オミナエシ

(オミナエシ科)

秋の七草として知られていますが、実際の花期は盛夏です。日当たりの良い草地に黄色の花を咲かせ、独特の香りがあります。

コウホネ (スイレン科)

日本・朝鮮半島に自生する水生植物で、水底に骨の様に見える太い地下茎があります。花の様に見えるのは、5枚のがく片で本当の花弁はその内側にあるリボン状の所です。花の中心の柱頭盤が赤色を帯びるサイジョウコウホネは東広島が基準産地です。

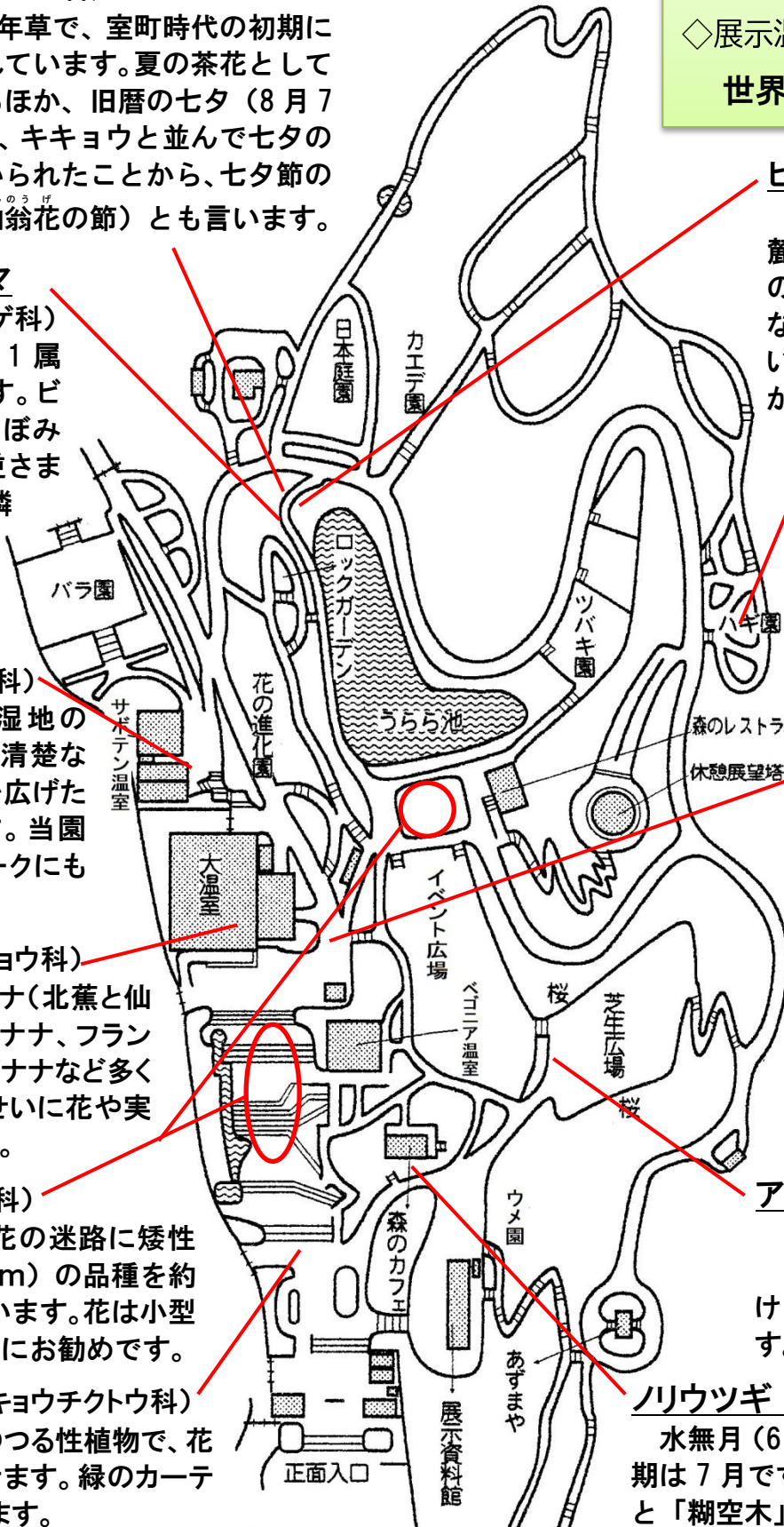
アメリカノウゼンカズラ

(ノウゼンカズラ科)

落葉つる性木本。夏~秋にかけて赤色の大きな花を付けます。夏の季語にもなっています。

ノリウツギ “ミナヅキ” (アジサイ科)

水無月(6月)という品種名ですが、花期は7月です。ノリウツギを漢字で書くと「糊空木」、紙すきの糊に使われます。



✿毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿

✿毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿